

2018年度ロシア留学体験レポート

新潟国際情報大学
国際文化学科 2年
櫻澤日奈子

4か月間の留学を一言で表すならば「楽しかった」です。ウラジオストクへの留学中は長いようで、あっという間に終わってしまいました。最初の1か月は、授業になかなかついて行けず悔しい思いが募りました。また、慣れない場所での生活や、韓国人のルームメイトなど新しいことが次々と起こり、早く日本に帰りたいとばかり考えていました。そんな中、ウラジオストクでの生活を支えてくれたのが同じ日本人留学生の仲間と、大学の先生でした。一緒に留学した仲間とは、不安を共有し、励ましあいながら寮生活を過ごしました。生活するうえで必要不可欠なものを貸しあい、情報交換しながらなんとか1か月目を乗り切りました。また、大学の先生と行く課外授業も良いリフレッシュになりました。おいしいレストランに連れて行ってもらったり、観光名所や映画館を教えてもらったり、どんどんウラジオストクの町が好きになりました。1か月が経つと現地での生活にも慣れ、様々なことにチャレンジすることができました。韓国人のルームメイトと一緒にレストランや遊園地へ行き仲を深めたり、大学内にあるジムに入会し汗を流しストレスを発散したりと、自分自身の健康や周りにも目を向ける余裕ができました。さらに、最初はありえないと思っていた一人で街を散策することやレストランに行くことも当たり前になり、不自由なく生活できるようになりました。また、友達で行ったカフェ巡りやお買い物などもとても良い思い出です。イベントごとにもとても多く、遠足やお祭り、バレエ・オペラ鑑賞、スポーツ観戦など嬉しいほどに忙しく、いつの間にか帰国の日が迫っていました。

この留学が「楽しかった」と言えるのは、支えてくださった先生方や不安や喜びを共有してくれた友だちがいてくれたからこそです。もちろんロシア語のスキル向上も留学で得たものですが、それ以上に大切なものを手にした4か月間。留学へ行くことと決意した今年の自分に「えらい！」と言ってしまうほど、貴重な体験ができる留学でした。留学中に得たものを余すところなく、今後の生活に生かしていきたいです。